



顔
2006-2015年
50×50×50cm
真綿、棉、糸
作家蔵

平櫛田中賞について

この賞は、107歳の天寿を全うするまで芸術の理想を追求し続け、近代彫刻界に偉大な足跡を残した平櫛田中(ひらくしでんちゅう 1872-1979)が、彫刻界の発展に役立てたいと百寿の記念に寄附した浄財をもって、1971年に創設されました。

現在、井原市が主管し、権威ある美術評論家、彫刻家などによって厳正に推薦・選考される日本を代表する彫刻賞として、今年で27回目を迎えました。

平櫛田中賞は、田中の偉業を後世に伝え、さらに優秀な彫刻家の顕彰を行うとともに、文化の香り高い町づくりを市民憲章に掲げた井原市民のこの上ない大きな誇りであります。

第27回 平櫛田中賞 選考委員 五十音順

市川 政憲	江口 週	海老塚耕一	鍵岡 正謹
岸 桂子	酒井 忠康	澄川 喜一	長谷川三郎
深井 隆	水沢 勉	峯田 敏郎	山縣 壽夫



蜘蛛の糸1
2007-2008年
250×200×200 cm
棉、桜、桂
作家蔵



第27回平櫛田中賞について

こんどの受賞者の黒蔵壮(1951年鹿児島生れ)は、知る人ぞ知る木彫の作家です—などと書くと、ちょっと勿体ぶって聞こえるでしょうが、いかにも木彫の作家らしい作家が久しぶりに受賞者に選ばれたという印象をあたえるのではないのでしょうか。

1980年代半ば以降、いくつかのコンクールで賞を受け、そのとてつもない技巧を凝らした仕事は大いに注目されました。その後も一貫して具象の木彫を本来として今日に及んでいます。

職人的な手わざの妙はともかく、わたしはむしろその発想の面白さに驚嘆します。高度の技巧というのは仕事の持続のなかに養われます。けれどもこの作家の発想の面白さには、一種、独特なものがあるからです。カフカの小説などの世界に繋がっている感じを思い起こしていただければ解ると思います。

人間の身体の抱える摩訶不思議さに、鑑賞者が知らず知らずのうちに、自然に誘われているのに気づく感覚と言い換えてもいいでしょう。

黒蔵壮の木彫は、その意味で木との対話を時代の感覚によって言語化している—というのが、わたしの見解です。

第27回平櫛田中賞選考委員会
委員 酒井 忠康

いばら でんちゅう
井原市立田中美術館

〒715-8601 岡山県井原市井原町315

tel 0866-62-8787 fax 0866-62-9567

Eメール：dencyu@city.ibara.okayama.jp

ホームページ

http://www.city.ibara.okayama.jp/denchu_museum/index.html

dream of the hand 1992年 230×150×150 cm 棉、ステンレス 作家蔵

「表紙」あの手・この手 2009-2015年 240×1300×50 cm 鉄、棉 作家蔵



第27回 平櫛田中賞

受賞者報告

井原市立田中美術館

第27回 平櫛田中賞 受賞者

黒蔵 壮 Kurowarabi Soh

【受賞理由】

木彫の魅力を最大限に活かし、人間と彫刻との関係を真摯に追求した造形に対して



【作家現住所】

〒453-0042
愛知県名古屋市中村区大秋町1-13
tel/fax 052-471-9041

初めてこの“平櫛田中賞”を意識したのは、1988年、現代木刻フェスティバル(ぎふ中部未来博、岐阜県関市)で大賞を受賞した時であった。“平櫛田中賞”の受賞者名が招待作家の中に何人か有ったから、それ以来の思い入れである。

私の制作は、道端に落ちている手袋を、木に彫ることから始まった。ホームレスと酒を酌み交わしたり、踏み潰された空缶に、脱ぎ捨てられたジーンズに、朽ち欠けた^{かい}襷に、人の関節に……。興味の湧いたいろいろな対象を作り続けてきたが、これからも心が感じるままに、木彫によるリアリティーを追求していこうと思う。

最後に、貴重な賞をいただき、ありがとうございました。



マイハウスI
1986年
230×150×50 cm
楠、ステンレス
作家蔵

略歴・受賞歴

- 1951 鹿児島県阿久根市に生まれる。高校卒業まで鹿児島に居住
- 1972 日本電子計算学院名古屋校卒業
- 1984～ 彫刻家・堀内正和氏に師事
- 1985 第17回現代日本美術展 立体部門入選
- 1986 第16回日本国際美術展 立体部門入選
第8回中日展 名古屋CBC賞
- 1988 第1回現代日本木刻フェスティバル 大賞
- 1991 平成2年度名古屋市長芸術奨励賞
- 1996 木の造形旭川大賞展 大賞



マイハウスI
(靴部分)

主な個展

- 1976 個展(ギャラリーはくぜん/名古屋)
- 1981 個展(ギャラリー安里/名古屋)(83、85、87、2012)
- 1990 個展(松坂屋名古屋本店)(98)
- 1991 個展(銀座松坂屋)
- 1992 名古屋市長芸術奨励賞受賞記念「黒蔵壮彫刻展」(名古屋市民ギャラリー)
- 1994 個展(ギャラリーユマニテ/名古屋)
- 1996 黒蔵壮彫刻展(神奈川県民ホール横浜)
- 1999 木彫によるリアリティー～黒蔵壮展(網走市立美術館/北海道)
- 2000 個展(ギャラリーせいほう/東京)(2011)
黒蔵壮木彫展(相生森林美術館/徳島)
- 2001 個展(高島屋日本橋店/東京、大丸/神戸、高島屋難波店/大阪、高島屋四条店/京都)
- 2011 刻まれた風の声 黒蔵壮展(網走市立美術館/北海道)

主なグループ展その他

- 1984、86、87 中日展(名古屋市博物館)
- 1988、90、92、94 現代日本木刻フェスティバル(関市文化会館/岐阜県)
現代彫刻の歩みⅢ～1970年代以降の表現―物質と空間の変容～(神奈川県民ホールギャラリー)
- 1992 愛知県芸術文化センター開館記念展「東海の作家たち」(愛知県美術館ギャラリー/名古屋)
- 1993 11月24日NHK教育テレビ「日曜美術館」にて紹介される箱、その宇宙展BOXITS COSMOS(ギャラリーユマニテ/名古屋)
- 1998 MINI SCULPTURES(ギャラリーせいほう/東京)(～2010まで毎年出品)
- 1999 神山アーティスト・イン・レジデンス(神山町/徳島)に参加、神領小学校をアトリエに『未来への箱船』を制作
- 2004 井原市立田中美術館でワークショップ
鹿児島県栗野町(現・湧水町)
チェーンソー・アート講師・審査・作品制作(2012まで毎年)
- 2009 名古屋市長能楽堂特別企画展
黒蔵壮・孝子二人展(名古屋市長能楽堂/名古屋)
- 2013 黒蔵壮・安孝展～情念そして幽玄の世界～(桜ショップ高松店)
黒蔵壮・安孝展～現代木彫と能面～(相生森林美術館)

主なパブリックコレクション

網走市立美術館、北海道立旭川美術館、神奈川県立近代美術館、東海記念病院(愛知県春日井市)、医王寺(愛知)、関市文化会館(岐阜県)、神領小学校(徳島)、相生森林美術館(徳島県那賀町)、栗野総合施設(鹿児島)、鶴川内中学校(鹿児島)、鹿児島県霧島アートの森



チョット休憩
1985年
200×180×50 cm
楠、ステンレス、鉄
鹿児島霧島アートの森蔵

釣られたH氏
1985年
150×150×150 cm
楠、鉄
網走市立美術館蔵